遼寧省文物考古研究所との共同研究

遼寧省文物考古研究所との共同研究は、2013年11月に遼寧省瀋陽市の遼寧省文物考古研究所並びに朝陽市と北票市で、遼西地域東晋十六国期都城文化関連の遺跡・遺物を調査しました。今回は11月23日から30日までの８日間、遺物の調査とともに三官営子(さんかんえいし)遺跡を踏査しました。調査者は、計４名でした。

今回の調査対象は、遼寧省文物考古研究所等によって北票市で発掘調査された、金嶺寺遺跡出土瓦および大板営子(だいばんえいし)遺跡出土金属製品です。これらの遺跡は慕容鮮卑(ぼようせんぴ)族の活動した三燕時期にあたり、３世紀から４世紀にかけてのもので、日本の古墳時代に相当します。瓦は、軒丸瓦を主体に全体で60件余りを調査しました。遺物の熟覧・調書作成、拓本・実測、撮影等、考古学的調査が主体でした。製作技法について新知見がいくつかあきらかになってきています。大板営子遺跡出土金属には、金・銀・銅・鉄製品が含まれていますが、鉄製品には錆のために形の不明瞭なものもあります。そのため、まず、それらの種類を見極める基礎的な作業が必要です。また、日本と中国で製品名の異なるものもあり、それを確認することも不可欠です。そのため、今回の調査では、出土品一覧表の作成から始めました。その一覧表が完成したので、今後はこれに基づいて様々な調査を実施する予定です。金属製品についても一部、熟覧、実測、撮影等をおこないました。

これらの調査に加えて、今年度３月の調査計画や来年度の共同研究計画について、遼寧省文物考古研究所の李新全書記らと、協議をおこないました。

（都城発掘調査部　小池 伸彦）

遼寧省文物考古研究所での出土品調査の様子